

実り 12月号



自分の輝ける場所を見つける

先週末に、市の「人権を考えるつどい」で、大前光市さんのお話をうかがう機会がありました。大前さんは、リオ2016パラリンピックの閉会式でもパフォーマンスをされた義足のプロダンサーです。芸術大学を卒業してすぐの、これからプロとして活動しようという矢先に左膝下を失ってしまったのだそうですが、その大前さんが、ダンスを交えてお話をされました。

足を失った当初は、義足を改良しながら、どうすれば健常者のダンサーと同じ動きができるかを追究されていたそうです。けれども次第に、足の無い自分にしかできない表現を自分の強みと考えるようになっていきます。あえて短い義足を付け、地を滑るようにして踊る動きは、他のダンサーと同じフロアで踊っても目立ちます。逆に長すぎる義足を付けて踊ったり、義足を見せる役どころを得たりしながら、大前さんは他の人になかった表現を持ち味に多くのステージに立つことで、一度ならず諦めかけた、プロとして活躍できるようになったのだそうです。



そんな大前さんが語る「誰にでも輝ける場所がある」というメッセージには、納得させられる力強さがありました。けれどもそれ以上に強く印象に残ったのは、ふと言われた「僕は、その場所を自分で見つけた」という言葉でした。この「自分で見つけた」の一言の裏に、どれほどの努力と葛藤があったのかと思うと、自分はなかなか輝けないと簡単に嘆くことは恥ずかしいと思いました。「誰にでも輝ける場所がある」ことは、誰もが簡単に輝けるということとは違います。けれども、片足を失った方がプロダンサーの夢を叶えるまでの道のりを思えば、思うように輝けない日々が続こうとも、自分を簡単にあきらめるものではない、と強く思われました。

この日、舞台上で演じられた「Swan」という演目は、片羽を失った白鳥が、それでも自分なりの飛び方を見つけていくというストーリーでした。大前さんだからこそ表現できるダンスだと感じました。勇気をいただいた大前さんのことを3年生の皆にも伝えたく、紙面をとりました。大前さんは、YouTubeにご自分のチャンネルをお持ちです。機会があれば、ご家庭でもご覧になってみてはいかがでしょうか。

2017年も、あと少しとなりました。生徒会も後輩に引継ぐ時期となり、3年生にとって最後のクラスマッチも終わりました。これからは受験に向けて、勉強に打ち込まなくてはならない日々が始まりますが、それでも、中学生生活の残りの日々が無味乾燥なものとなるのではなく、これまで共に過ごしてきた仲間と、最後まで友達としての、あるいは先輩としての、そして附中生としての時間を大切にしたいと願います。どうぞ、良いお年をお送りください。



1月の行事予定

日	曜日	予定	日	曜日	予定
9	火	全校集会 専門委員長任命式	18	木	3年総合考査IV
10	水	習熟度テストVI	19	金	山口県桜ヶ丘高校入試日 ※ 受験者以外は家庭学習
11・12	木・金	自由参観日	22・23	月・火	三者懇談（希望者のみ）
13	土	本校第一回入学者選抜試験			
15	月	入試業務による休業（家庭学習）			

入試の日程については、説明会の資料などを参考に、ご確認ください。

なお、19日（金）は受験者数が多いため、受験者以外は家庭学習とします。ご了承ください。

